

珍客飛来 Part 2

右の写真のなかの 3 羽のうち、手前でおしりを向けているのは前回ご紹介したホシハジロ、奥の黒い鳥は毎年たくさん飛来しているオオバンで、まんなかの鳥が今回ご紹介する珍客です。目のうしろの模様から、てっきりアメリカヒドリとと思っていたのですが、専門家によれば、アメリカヒドリとヒドリガモの交雑個体とのことでした。全体的に、両種の間間的な羽色がでているそうです。



アメリカヒドリはその名のとおり北米産の鳥ですが、アラスカあたりで育ったものが、ときおりヒドリガモが繁殖するシベリアまで吹き飛ばされて来るのでしょう。日本で越冬するヒドリガモの群れには、今回のような雑種だけでなく、純然たるアメリカヒドリもちらほら混ざっているそうです。

図鑑によれば、カモ類は他の野鳥にくらべて、異種での交雑個体が多いそうです。昨年、マガモの雄が 1 羽だけ、北へ帰らずにウェットランドで夏を過ごしていました。たいていはカルガモのあとを追いかけていたので、ひょっとしたら交雑個体ができているのかもしれませんが、この組み合わせの識別はかなりむずかしいようです。